

No.	評価対象施策名	所管部局
4	大長寿を享受できる健康づくりの推進	健康長寿福祉部

● 施策評価の実施（第3回京丹後市行政評価委員会における意見の要旨）

（所管部局から資料「施策評価・進捗管理調書」に基づき説明）

委員 百歳以上の方は約何人おられるのでしょうか。

その方々の健康状態、ずっと寝たきりなのか、家族と一緒に過ごされているのかを教えてください。

また、自殺者の年齢層についても教えてください。

所管部局 百歳以上の方の人数は、約80人で、増加傾向にあります。

人口10万人当たりの100歳以上の方の人数を百<sup>ひゃくじゅりつ</sup>寿率と言いますが、京丹後市の百<sup>ひゃくじゅりつ</sup>寿率は、全国平均の約2.5倍と高い数値になっています。

はっきりとした数字は、この場でお答えできませんが、介護保険認定の無い100歳以上の方のうち、15%くらいの方が元気に暮らしておられると記憶しています。

また、同居されている方が多いと思われませんが、独居でも元気で御自分で食事の準備をしっかりとされている方もおられました。

本市の自殺の関係について、男性では、40歳以上の方の自殺率が高く、女性は、高齢者の自殺率が高いという状況です。

委員 百歳以上の方について、寝たきりの方が多いのでしょうか。

先ほど、元気に暮らしていると言われた方以外の方は、寝たきりであつてもときどき起き上がって動けるとか、完全に寝たきりとか、そこまで詳しくは分かりませんか。

所管部局 この場では正確な人数は、分かりませんが、要介護4、5の方がある程度おられると認識しています。

ただし、訪問させていただいた際には、元気にお話してくださる方も割とおられ、本市の百歳以上の方は、比較的コミュニケーションができたり、よく動いておられたりという結果も聞いています。

委員 百歳以上の方で、施設に入っている方はおられないのでしょうか。

所管部局 施設に入っておられる方もおられます。

委員長 沖縄や長野県では長寿の秘けつのようなことを本などにまとめておられます。

京丹後市でも何か長寿の秘けつのようなことがあるのでしょうか。

所管部局 平成25年に『「京丹後」百寿人生のレシピ』という本を発刊しています。

食事が健康長寿に関係しているのではないかとということで、市内の100歳以上の方及び100歳以上になる方のうち、37人の方を調査したところ、京丹後市にある山のもの、海のものをお食べおられ、幼少期からたんぱく質、カルシウムを始め、様々なミネラルがしっかり摂れているという結果でした。

それと、3食をしっかり食べておられるとういうことで、これらの結果については、食育の取組と合わせて啓発しています。

また、100歳以上の方が実践した健康長寿の秘けつを全国から公募及び取材を行い、それをまとめた「百歳健康長寿の秘けつ集」を平成26年に発刊し、平成27年現在も取材を継続しています。

委員長 ほかにありませんか。

委員 自殺の主な原因を教えてください。

それと、京丹後市では、8月30日から9月3日くらいまでの間に子どもが自殺をしたということはなかったのでしょうか。

所管部局 全国的に夏休みが明ける前の自殺が多いと言われていますが、本市では、子どもの自殺はありませんでした。

それと、自殺の原因については、数字上は、健康問題が最も多く、次が勤務問題、それから、経済、生活問題となりますが、自殺については、いろいろなことが複雑に絡んでいますので、一概にこれが原因と言えない場合があります。

ただし、健康問題が最も多いという数字から、複数の原因がある中で、最終的にうつになられて亡くなれることが多いと思われまます。

委員 京丹後市外の方が、京丹後市内を自殺場所にされるという割合はどのくらいでしょうか。

委員長 施策評価・進捗管理調書のめざす目標にある自殺者数は、自殺された市民の人数で、京丹後市内で自殺された方の人数とは違うということですね。

所管部局 はい。

委員 長 京丹後市を自殺の場として選ばれているケースについては、この健康長寿福祉部の取組の対象外で、警察や市民の方による声掛けなどの問題になってくるということで、守備範囲外ということですね。

所管部局 はい。

委員 長 外部の視点から見れば、どちらも自殺に関する問題であり、京丹後市が自殺の場として選ばれることがないようにしたほうが望ましいし、市民が自殺されるのも減らしたいという趣旨の御発言だったと思います。

委員 長 次にDOの部分を見ていきたいと思います。

まず、行政の主な取組の「① 健康づくりの意識向上」について、御意見、御質問をお願いします。

委員 長 見直しの検討をされるという説明があった5番の「在宅健康管理システム事業」について、こういったシステムなのかももう少し詳しく教えてください。

所管部局 自動血圧計とスマートフォンを使ったもので、自動血圧計で血圧を測定し、その測定値の情報がスマートフォンへ行き、そこから市の保健師のパソコンにその情報が送られてきます。

各保健師が担当している方の情報を毎日確認して、余りにも高い数値であれば、連絡を取って保健指導をさせていただいています。

また、双方向ではありませんが、Eメールで健康管理に関する指導を個別又は一斉に行っています。

委員 長 この事業は、こういった方が対象になるのでしょうか。

所管部局 健康診断の結果、正常値高値以上の方、血圧が収縮期血圧130mmHg以上又は拡張期血圧85mmHg以上の方を対象にしています。

できるだけ多くの人に使ってもらい、みんなに元気になって欲しいという考えから、貸与期間を最長1年としています。

委員 長 機器のリース期間の満了又は耐用年数の経過を理由に見直しをされるということでしょうか。

所管部局 サーバの耐用年数の問題もありますし、使用しているスマートフォンについては、既に製造中止になっています。

委員 長 特定のスマートフォンでないとだめということですね。

所管部局 はい。

また、スマートフォンに入っているソフトを使っていますので、機器の耐用年数による見直しが理由ということになります。

委員長 歳出抑制の考え方として、在宅健康管理システム事業を見直すということについては、賛成です。

事業費として約3百万円のお金が掛かっていますので、誰か人を雇って、各対象者の家を訪問したほうが、雇用を生むようにも思われます。

そのため、外部評価結果としては、在宅健康管理システム事業の見直しが歳出抑制の考え方として挙げられているけれども、それは妥当であるというような整理になるかと思われませんが、委員の皆さんにおかれては、特に御異論はないでしょうか。

委員 利用者数が少ないようであれば、この事業は止めたほうが良いかなと思いました。

委員長 食育事業の関係で、委員の皆さまから何かあればお願いします。

委員 決算附属資料で、平成26年度に行った事業概要として、食育啓発用ランチョンマット、のぼり配布と記載されていますが、これは何でしょうか。

所管部局 「食育の日は、19日です」というのぼりをいろいろなイベントで使ったり、学校の玄関やランチルームに立てたりして食育をPRしています。

ランチョンマットは、バランス食や食育に関心を持ってもらうために、昨年は小学生の児童に配布しましたし、今年は保育所や幼稚園の児童全員にお渡しする予定です。

マットの上に主菜、副菜という枠がありまして、このように食べていきましょうという趣旨です。

委員長 そこに載っていなかったら、不足していることが分かるということですね。

所管部局 はい。

だいたい、このようなメニューですと、基本的なところが分かるようにという趣旨です。

委員長 手ごたえは、いかがでしょうか。

所管部局 現段階では、なかなか手ごたえが見えにくいという状況です。

今後、食育の計画も策定していく予定で、それに向けた市民アンケートも行う予定です。

このアンケート結果から、食育に対する認知度なども評価できるかなと考えています。

委員 高校生料理教室として1万2千円が掛かっていますが、これはどういったものでしょうか。

所管部局 各高校にPRはさせていただきましたが、高校生にとって忙しい時期での開催になったということで、参加者は10人前後だったと思います。

料理の実習をして、大事な食べ物を覚えていただいたというところです。

委員長 委員の皆さまにお尋ねします。

個人的な意見としては、食育の取組は長寿を進めていく上でも重要ですし、いろいろと取組をされていて、先ほど所管部局とやり取りをして詳しく内容を伺ったけど、特に大きな問題を感じている訳ではありません。

ただし、あえて言えば、『「京丹後」百寿人生のレシピ』の増刷費用として約47万円が掛かっています。

インターネットで注文するなど、もう少し安く増刷する方法がないのかと思います。大まかには、長寿に向けてこれからも工夫して取組を進めていただければどうかと思っています。

委員の皆さん、今のようなまとめ方でよろしいでしょうか。

委員 食生活が健康長寿に密接に関係していると思いますので、良いかと思いません。

委員長 パンフレットを増刷について、最近のインターネット印刷を利用すると、納期を急がないのであれば、値段が大きく下がるケースなど、いろいろなパターンがあります。

4千部で47万円掛かっていることに対して、そのくらい掛かるのかなと思う反面、もっと安くできるのではないかという気もします。

節約するのであれば、そういったことも考えられるのではないかというところです。

所管部局 味のあるレシピを作ろうということで、冊子を作っています。

この冊子は、市内の印刷業者をお願いしていますが、イラストやデザインなどいろいろ工夫してもらっていますし、原版をお持ちですので、増刷の場合は同じところをお願いしています。

委員 市内の業者を使っただけだとありがたいです。

委員長 地元の産業振興という意味で、地元の印刷業者に発注するという事は、割とよくある発想ではありますが、他方で、余りにも値段が離れてきた場合には、行政の発想としては、少し考えたほうが良いのではないかという部分もあります。

両論あったということで、必ずそうしなければいけないというような書き方にはしないということにしたいと思います。

ほかに何かあればお願いします。

委員 4番の「健康づくり推進員活動事業」の決算附属資料に健康づくり推進員の人数が記載されており、地区によっては、健康づくり推進員がおられない地域もあるようです。

健康推進課では、推進員のお願いについて努力されていると思いますが、もう少し努力していただき、推進員を増やして欲しいと思います。

所管部局 区長会で推進員を推薦いただくようお願いをしていますが、なかなか推薦が難しい部分があります。

そのため、毎年の活動報告を区長会に持って行かせてもらっており、少しずつ推薦が増えているのかなという印象を持っています。

最初は、78.5%だったのが、現在は81.3%の推薦率になっています。

認知度がまだ低いと言われていいますので、努力していきたいと思います。

委員 推進員を増やす努力については、お願いしたいと思います。

委員長 「② 保健事業の充実」の部分について、御意見、御質問があればお願いします。

委員 11番の「健康相談・指導事業」について、健康診断を受診し、メタボリックシンドロームの関係で引っかかると、すごく丁寧に文書が送ってこられていたような気がします。

郵送されてきた文書については余り見ていないように思われますし、郵便代も高くつくので、そこまで必要なのかなと思って見ていました。

所管部局 特定健康診査ということで、メタボリックシンドロームに着目した健康診査を行っていて、該当する方に対しては、特定保健指導という指導を国全体

で行っています。

生活習慣病になってからでは遅く、重病化する前に、早めに予防することが大事ですので、制度に基づいて取組を進めています。

郵送ではなかなか反応がありませんので、直接、電話もしています。

委員長 そうであれば、郵送でのお知らせを止めて、電話だけにしたら良いとも考えることができますが、いきなり電話するより、「手紙を送ったのですが、見ていただきましたか」と言うほうが、連絡やすいということですね。

所管部局 先ほど、委員から御発言があったメタボリックシンドロームに関する連絡は、大勢の方に送っている訳ではありません。

委員長 次に「③ 自殺予防対策の充実」について、御意見、御質問があればお願いします。

委員 15番の「自殺予防対策事業」の決算附属資料に研修関係旅費等として6万9千円と記載されています。

どういったところに、何を勉強しに行かれた費用でしょうか。

所管部局 保健師が専門的な勉強をするために、例えば、2泊3日で東京に行ったり、単発的に行われたいろいろな研修会に参加したりした旅費になります。

また、全国的な先進事例を学んだり、情報交換をしたりするために、何回か開催される全国の市区町村で会を作っている自殺のない社会づくり市区町村会に参加しています。

委員 フリーアクセス通話料について600件で44万8千円掛かっており、1件当たり750円の通話料ということで、かなり長時間に及ぶお話が多いということでしょうか。

所管部局 はい。

携帯電話から掛けて来られる方もおられますので、通話料が高くなっています。

委員長 掛ける側の通話料は、無料のほうが良いということですね。

所管部局 はい。

委員長 この600件の相談について、相談者の実人数は何人くらいでしょうか。

同じ方が何回も掛けてこられているのであれば、最初は、切羽詰まった話かもしれませんが、以降は、切迫感が無い話が多いのであれば、2回目以降

の通話料は、相談者の負担とすることはできないかとも考えられます。

または、直接、市役所に来ていただいてお話を聞かせてくださいということも、経費を減らす観点からは、考えられます。

これについての所管部局のお考えをお聞かせください。

所管部局 このフリーアクセス相談については、京都いのちの電話と京都府精神保健福祉総合センターの「はなし」の2か所をお願いしています。

電話を掛けた人は、トータルで約8千人おられて、その中で600件がつながったということです。

重複して何回も電話をされた方があるかもしれませんが、24時間眠らない電話ということで、対応していただいています。

私たちが対応できない部分を、この電話でいのちを救っていただいている部分があるかと思っています。

委員長 この経費は、分担金のようなもので、その地域からの利用数に応じて請求が割り振られてくるということでしょうか。

所管部局 そういったことでは無いと思います。

本市では、平成18年にこの事業を開始するときに、このフリーアクセスが大事ではないかということで、電話を設置する際に設置謝金を支払っています。

しかし、各市町村から分担金を取っているということではありません。

いのちの電話については、寄附金でほとんどを賄っておられます。

委員長 心の健康相談について、相談者が延べ29人となっています。

同じ人が何回も相談され、実際に相談される方の実人数は、そんなに多くないということでしょうか。

所管部局 いろいろな人に相談機会を設けたいと考えており、基本的には、初めて相談される方がほとんどで、実人数は27人です。

委員長 分かりました。

10年以上前にいじめ問題がすごく注目されました。

その際に、24時間対応すべきということで、取組をされていましたが、電話1回あたりの経費が高すぎるのではないかという話が出て、見直しされたということがあったので、このフリーアクセスの実態を知りたくて、質問



した面もありました。

自殺予防街頭啓発の部分で啓発物品配布数として400セットとかありますが、この啓発物品のセットとは、具体的にどんなものでしょうか。

所管部局 相談窓口を記載したチラシや健康推進課や相談窓口の連絡先を記載したものを同封したポケットティッシュを配布しています。

委員長 「③ 自殺予防対策の充実」について、委員の皆さん、ほかに御意見などは無いでしょうか。

委員 はい。

委員長 「① 健康づくり意識の向上」の6番の「健康増進計画・食育推進計画策定事業」で市民アンケートの実施とあります。

アンケート調査を委託によりされる予定ということですが、もう少し自前で行うとか、安く行うことはできなかったのでしょうか。

所管部局 事業の全てを委託したかったのですが、事業費を節約する観点から、アンケート用紙の印刷は、職員が自前で行っており、経費節減の結果、この金額になっています。

委員長 アンケートを自前で行うことについては、人的な面から難しい面があるということでしょうか。

所管部局 通常の事業を行いながら、その上に計画策定を行うことになりますので、委託できる分については委託しているということになります。

委員長 分かりました。

(所管部局退室)

委員 評価の最初のほうで、京丹後市では子どもの自殺は無いという説明が所管部局からありました。

全国的には、いじめの関係で、自殺されている方がおられます中では、もう少し学校と連携してとか、教育委員会と一緒にってという回答がいただければありがたかったと感じました。

● 前回委員会評価対象施策の再評価及び評価のまとめ（第4回京丹後市行政評価委員会における意見の要旨）

（所管部局から資料「委員会意見に対する所管部局補足説明・意見」に基づき説明）

委員長 まず、外部評価結果（案）の「3 施策展開について」の（3）自殺予防対策の取組に対する記述部分について見ていきたいと思えます。

前回の委員会の議論としては、自殺予防の取組として、市民を対象に注力されていることは、重要なことであると、他方で、市外から来た人が自殺することも防止するという視点も大事ではないかと言っていました。

これに対する所管部局からのお返しとしては、市外の人が市内で自殺することに対して特別な対策は現在行っていないが、今後、そういった自殺者が増加したり、特定の場所での自殺があったりするようであれば、検討していきたいという内容になっています。

いかがでしょうか。

委員 所管部局としては、外部評価結果（案）の現在の表現について、何か支障がありますか。

所管部局 記載内容は、間違いではないと思えます。

ただし、特定の場所での自殺が多いということであれば対策を立てることもできますが、そうではないので対応が難しいという部分があります。

また、相談があれば相談に乗っています。

したがって、市外からの自殺について全く考えていない訳ではなく、具体的な対処方法としてどういったことが考えられるのかは研究すべきかと思えますが、現状維持以外の対策は考えにくいです。

委員長 所管部局の説明を聞いても、看板立てや声掛けなどの対策がもっと必要ということであれば、そういった整理になると思えます。

他方、そこまでの対策は必要無いということであれば、あくまで視点のことを言っているのであって、直ちに対処すべきという指摘ではないということが分かるようニュアンスを修正することも考えられます。

委員 現在の表現を緩める形で修正していただければと思えます。

委員長 それでは、前段の「市民の自殺者を減らすことに注力することは」の部分、既に注力していることなので「注力している」としましょう。

「他方で、市外に住所のある人が京丹後市を自殺場所として選ぶことを防止するという視点も重要ではないか」の部分について、もう少し柔らかい感じにすべきと思いますが、委員の皆さん、何か良い表現はありませんか。

委員 この意見を発言した私としても、市外の方の自殺者数やこういった場所での自殺が多いということを知った上での発言ではなかったということで了解していただければと思います。

市外から来た人の自殺が過去にあったなという程度で発言した次第です。

委員長 この部分の修正については、事務局にお任せしたいと思います。

市民と同等という訳ではなく、市外から来た人の自殺を防止するという視点もあるということと、そういった事例がたくさんあるから直ちに対処すべきと言っている訳ではないというような、そういったことも忘れてはならないというニュアンスで文章を考えていただければと思います。

続いて、施策展開についての（１）の京丹後百寿人生のレシピの増刷に要する費用が掛かっているという部分について見ていきましょう。

政策というのは、目的に対して良い結果を出すことが大事ですが、同じ結果を出すのであれば、より速く結果を出すほうが良いし、お金が少なくできるほうが良いということで、費用対効果ということを考えることになります。

所管部局としては、市内業者育成の観点や地域経済などを総合的に考えて、費用対効果の範囲に収まっているのではないかという回答をいただいていると思います。

とは言っても、もっとずっと安くできるのであれば、市外の業者に発注しても良いのではないかということを示した訳です。

所管部局からの回答についてもうなずける点がありますので、委員の皆さんの意見を伺いたいと思います。

委員 市内でできることは、市内業者に発注することで良いと思います。

委員長 補足させていただきますが、市外に発注すると大きく値段が変わる場合があります。

デザインやきれいに印刷してもらえるというメリットもあると思いますが、パソコンの機能が向上したことにより、自分でデザインできる人も増えていきます。

そういった市民にデザインをしてもらい、印刷をインターネット印刷に発注すれば、市が払うお金を大きく減らすことができる可能性もあります。

一石を投じたいということで発言していますので、先ほどの委員の意見を踏まえて、歳出抑制の視点に移動して整理してはと思います。

ほかの委員さんいかがでしょうか。

委員 市内業者で対応できることは、市内業者に発注するということはそのとおりだと思います。

経費を抑えて市内業者に発注して利益が少ないけど仕事をしてもらうということも考えられますし、それなりの経費で市内業者に発注し、その分一生懸命仕事をしてもらって税金で納めてもらうという考え方からすると、一概に経費削減だけに走るとするのはどうかなとも思いますので、難しいところがあります。

市内業者に発注という方向性は、非常にありがたいことだと思います。

委員 長 私としては、市内業者を優先したばかりに、競争力を失ってしまったり、市が丸抱えしたりというようなことになってはダメだろうというくらいの意見です。

ほかいかがでしょうか。

委員 所管部局からの回答の中に「市内業者に発注することを基本としています」と「基本」という文言が入っており、必ず市内業者に発注ということではないと見受けられます。

金額に余りに開きがある場合や金額が余りに高額になった場合には、委員長から発言があった内容も検討してみるべきかなと思います。

委員 長 それでは、(1)の意見については多少の修正を加えて、歳出抑制の視点に移動したいと思います。

移動したことに伴い、歳出抑制の視点の欄に「所管部局の歳出抑制の考え方は、妥当であり、評価できる」とありますが、「所管部局の歳出抑制の考え方は、おおむね妥当である」と「おおみね」を追加する形で修正し、その次に「なお、更なる抑制のアイデアとして次のとおり提案する」の文言を追加し、アイデアの一つとして、施策展開についての(1)の内容を記載したいと思います。

所管部局からの回答にあるように、今後も市内業者に基本的に発注するということが良いとは思いますが、透明性、競争性に十分留意してということ発注していただければと思います。

● **外部評価結果(案)の確認(第5回京丹後市行政評価委員会における意見の要旨)**

委員長 変更点ですが、「3 施策展開について」の(2)の自殺予防対策について一部文章が変更されています。

また、「4 歳出抑制について」において、更なる抑制のアイデアとして、印刷物の関係でインターネット印刷に比べやや経費が掛かっている印象を受けるとのことですが、基本的に市内業者に発注することは間違っていないと思います。

ただし、余りにも市外業者と価格差があり過ぎると、市内の業者に発注することの正当化がしにくくなります。

言い方が悪いかもしれませんが、市内の業者にも市がいろいろ発注してくれるということに安住せず、外の新しい動きも取り入れ、技術革新に努めてもらいたいというメッセージを込めたものです。

委員長 特に意見などが無いようなので、修正案で確認したことにしましょう。